

働き方改革 通信

For everyone's Smile

第5号
令和3年8月
山形県教育庁

☆令和3年度上期時間外在校等時間の状況について☆

上期もあと残すところ1か月となりました。以下は県立高等学校の月毎の推移です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2	13:41	16:43	37:43	42:45	36:06	47:24	52:49	43:35	36:45	36:08	32:32	30:31
R3	44:51	52:14	49:52									

昨年度4月の時間外在校等時間の平均は13:41、5月は16:43でした。コロナ対応による消毒作業や教育課程の変更等緊急対応が生じたとはいえ、部活動や行事等が削減された状態でも勤務時間を超える業務があり、4・5月は忙しい時期であることを表しています。

今年度は通常の授業や部活動が行われ、昨年度を大きく上回る時間外在校等時間の平均となっています。

以下の表は、月80時間を超えた先生方と面談された県立高等学校の校長先生から、80時間超になった理由を県教育委員会が聞き取ったものです。これらの助言をヒントとして、共に考え課題解決の糸口を見つけ出すことが、働き方改革の近道であると考えています。

R3. 4・5月 80時間超の理由	校長先生からの助言と今後の課題
e教務に苦戦している。	年度始めのe教務、様々な設定対応。
コロナ対応、ネットワーク担当(異動者のPC設定)	業務が重なる時に優先順位をつけることのできる環境
教育課程の編成が遅れている。	
総務課長の業務と〇〇〇部の指導。	
●●●部と●●部の指導。2年担任の業務。	複数顧問制をどう活かすか。
保健課専任でコロナ対応、〇〇〇〇部の指導。	適切な業務分担
〇〇部の実技指導と2年担任の業務。	
〇〇〇部の指導。	オフシーズンは適切に休養を取ることを指導。
●●部展覧会の準備で土日勤務。SSHや探究活動の準備	定期演奏会等の時期。
●●部の定期演奏会。	
●●部の定期公演。	前任者と同じでなくてもよいことを指導。
〇〇先生と〇〇部の指導(朝練)と一緒に参加している。	交代で練習に参加する。
サーベイコンテスト朝練。	コンテスト等の参加の仕方
担任するクラスの家庭訪問。	家庭訪問等業務遂行の仕方
初の進路課長。様々な事務処理を担って長時間傾向に。	
文科事業の指定校になり予算書作成。	進路の資料作成の時期。予算書の作成。講習の在り方。復命書の作成。
3年担任として国公立大学合格を目指し放課後講習等。	
主任業務と部活。復命書は対戦相手とスコアを全て記載。	
●●●部の指導で土日休みなく練習している。	休日の練習時間の確認
〇〇〇〇〇〇の指導、GWは1日練習が続いた。	
〇〇部の指導。審判の資格者が少なく土日は2名とも参加	連盟や保護者への依頼・審判育成

裏面に続きます。

☆下期にむけて☆

校長先生から、先生方の校務分掌や健康状態、家庭の状況など様々な要因を分析いただき、ご指導いただいていることに感謝申し上げます。

部活動の在り方に関する方針については、全体的に意識は高まっているものの、今回の聴き取りの中には、一部「土日休みなく練習」や、「GWは1日練習」という実態がありました。時期的に大会前ということもあり、「土日」練習した分を「月火」休みにするなど、工夫されていることと思います。生徒及び教職員の健康のためにも、「大会」の数そのものの精査や、メリハリのある活動を、お願いします。

また、審判不足という理由で顧問が二人とも部活動に参加せざるを得ない状況に関しましては、今後開催される「部活動検討委員会」に情報提供し、課題解決にむけ対応策を検討します。

さらに、現在すでに複数顧問体制がとられている部活動に関しては、6月第3号の通信の好事例のように、どちらか一人は、教材研究や校務分掌業務に充てることができるようさらなるご指導をお願いします。

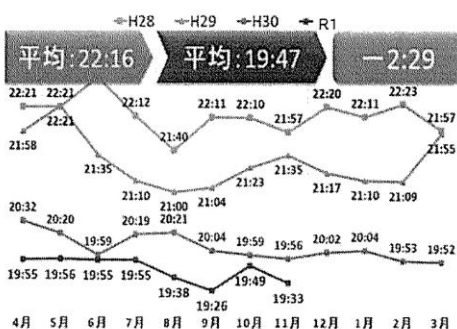
最後にスポーツ保健課で実施した部活動方針の適用状況に関するフォローアップ調査結果について今後発信予定です。

全国の学校における働き方改革の事例

～3つの視点と4つの手法で働き方改革～ 22時台の最終退庁が当たり前だった学校の変化（群馬県富岡市立富岡小学校）

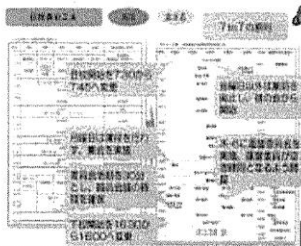
3年前までは最終退庁時刻の平均が22:16。業務量も多く、時間をかけることを美德としてきた中規模の小学校で、様々な取組を積み重ね、約2時間半の退庁時刻の早期化を実現。

【最終退庁時刻（授業日：月別平均）】



「時間の使い方は命の使い方である」と、職員の意識を大きく変え、自分事にし、チームワークの大切さを改めて実感できるよう、校長のリーダーシップのもと、学校全体で進めている。

3つの視点4つの手法で「大胆かつ慎重に」
「目的・目標・手段を明確に」「成果の実感を」
をポイントに、業務改善を推進



スクール・サポート・スタッフ

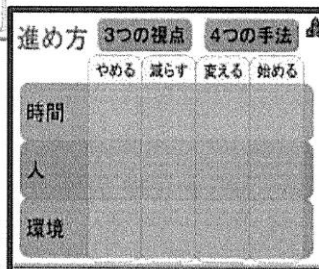


教科担当制
専門的な授業・学力向上と、
授業準備の効率化を両立。

校時表の工夫
登校時刻の後ろ倒し、清掃活動の縮減、朝活動の適正化、下校時刻の前倒し等の工夫を実施。



給食指導をローテーション
担任外の指導力向上、合間での
打合せ実施など有効活用。



クリーンタイムの習慣化、机上の
整理整頓、文書管理の共有・
徹底し、働きやすい環境へ改善。



その他、「やめる」「減らす」
ことも実施中。